

かんさい

高齢の糖尿病患者の血糖管理

高齢者の糖尿病は、肝臓や腎臓の機能低下などにより薬が効きやすくなるため、低血糖を起こしやすい。重い低血糖は命にかかるので、血糖値の下げ過ぎに注意が必要。高齢者の低血糖のリスクを重く見て、新たに設けた血糖値管理の目標は、一般より高めに設定して下限も設けた

高齢者の低血糖症状

血糖値 (mg/dl)	中枢神経	自律神経
70	頭がくらくら、体がふらふら、めまい、脱力感、眠気、ぼやけて見える、言語不明瞭、動作がぎこちない、疲労感、集中力低下、仕事の能率低下、不機嫌、周囲との不調和など	発汗、動悸、吐き気、熱っぽい、不安感、空腹感、頭痛、倦怠感など
50	けいれん、意識消失、昏迷	
40		
30		
20		
10		

東京都健康長寿医療センター提供



※高齢者は自律神経の症状が出ないことがある。個人差が大きいので症状が出る血糖値は目安。空腹時110mg/dl未満が正常

血糖値が高いままだと、網膜症や腎症、神経障害などの

高齢の糖尿病患者を対象にした血糖管理目標を、日本糖尿病学会と日本老年医学会が新たに決めた。高齢者は服薬により血糖値が下がり過ぎることがあるため、一般成人よりも高めにしたのが特徴だ。

(赤津良太)



高齢者の糖尿病

血糖管理目標

合併症を起こしやすくなる。失明や人工透析、足の切断につながり、脳梗塞や心筋梗塞のリスクも高まる。糖尿病治療は合併症の予防が目的だ。

どう治すの?

注意点は?

分泌促進薬、スルホニル尿素(SU)薬、インスリン製剤など、作用の仕方や効果の持続時間が異なる薬から、患者の状態に合うものを選ぶ。

今回の目標設定作業に携わった東京都健康長寿医療センター内科総括部長の荒木さんは「高齢者が重い低血糖になると、後遺症として認知症のリスクが高まる。認知症になると、身体機能の低下が加わると、本人はもちろん、家族なども

高齢者は肝臓や腎臓などの機能が低下し、薬の成分が長く体内にとどまりやすい。一般成人と同じように薬を使うと効果が増強され、血糖値が下がり過ぎる恐れがある。

高齢者が低血糖になると、一般成人で見られる冷や汗、動悸、震えなどの症状が出ないことが多い一方、頭がくら

くら、体がふらふら、めまい、下がり過ぎる恐れがある。一般的に、認知機能の低下が加わると、認知症のリスクが高まる。認知症になると、身体機能の低下が加わると、本人はもちろん、家族なども

高齢者は肝臓や腎臓などの機能が低下し、薬の成分が長く体内にとどまりやすい。一般成人と同じように薬を使うと効果が増強され、血糖値が下がり過ぎる恐れがある。

高齢者が低血糖になると、一般成人で見られる冷や汗、動悸、震えなどの症状が出ないことが多い一方、頭がくら

くら、体がふらふら、めまい、下がり過ぎる恐れがある。一般的に、認知機能の低下が加わると、認知症のリスクが高まる。認知症になると、身体機能の低下が加わると、本人はもちろん、家族なども

高齢者は肝臓や腎臓などの機能が低下し、薬の成分が長く体内にとどまりやすい。一般成人と同じように薬を使うと効果が増強され、血糖値が下がり過ぎる恐れがある。

高齢者が低血糖になると、一般成人で見られる冷や汗、動悸、震えなどの症状が出ないことが多い一方、頭がくら

低すぎ危険 「高め」設定

目標値(HbA1c)は、

グロビンエーワンシー)は、目標値(HbA1c)は、

目標値(HbA1c)は、

目標値(HbA1c)は、

目標値(HbA1c)は、

目標値(HbA1c)は、

高齢者向けの血糖管理目標(HbA1c値)

認知症	カテゴリー1			カテゴリー2			カテゴリー3		
	なし	自立	軽度 (軽度認知障害を含む)	入浴、着衣、トイレなど日常生活を送るために必要なものも低下	中等度以上	7.0%未満	7.0%未満	8.0%未満	8.5%未満 (下限7.0%)
無	7.0%未満	65歳以上75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%)	7.0%未満	8.0%未満 (下限7.0%)	8.0%未満	65歳以上75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%)	75歳以上 8.0%未満 (下限7.0%)	8.5%未満 (下限7.5%)	
有 重い低血糖を起こす 恐怖のある薬の使用	65歳以上75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%)	75歳以上 8.0%未満 (下限7.0%)							

日本糖尿病学会と日本老年医学会の発表文書をもとに作成

作図 デザイン部 関野朗子